# 二次研究協議会の様子

## １．レポート発表

各ブロック研究主題にせまった充実したレポート発表であり、他ブロックの情報交流や共通の課題を確認することができた。

## ２．分科会討議の成果と課題

【保健室（小）①②】

・養護教諭は各校一人しかいない場合が多いため、各々のやり方が児童生徒のための良い対応であるのかを、各校の保健室経営や実態交流を通して見つめ直すことができた。

・アレルギー対応については、各校の実態交流をすることでチェックミスがないようにするための手立てを知ることができた。また、命に関わる重要な問題であるという認識を全教職員が持ち、学校全体で徹底することが必要であり、更にはアレルギーを個性と考え、一人ひとり違うことを認めあえるような支援の在り方を考えていく必要がある。

・児童生徒の実態が年々変化している中、養護教諭という立場でどのように関わっていくか、どのような保健室を目指していくべきか、養護教諭の専門性というところについて考えていきたい。

【保健室（中）①②】

・どの学校も養護教諭が抱える悩みが似ており、各市町村の実態を情報共有することで、自分自身の対応を見直すことができたり、先輩養護教諭のアドバイスをいただくことができ学びが深まった。特に、不登校生徒や保健室登校生徒への対応については有意義な話し合いとなった。

・子どもたちが自己肯定感を持ち、自分の進路を自ら選択できるよう支援していくためには、学校全体で対応にあたらなくてはならず、教職員はもちろんSCやSSWなどの関係機関を含めた連携や校内体制作りが必要であることを確認した。

・「養護教諭としてぶれない視点」を持ち続けること、しかし、一人で悩みを抱え込まず自分自身のメンタルヘルスを大切にして日々の実践に努めること、個々で生徒をサポートするのではなくチームとしてサポートしていくこと等が今後の課題である。

【救急処置①②】

・各校の事例を交流したことで他校の様子を知ることができ、更に救急処置の方法の確認や救急体制について振り返ることができた。
・新しい知識や情報を得ることができ、疑問に思いながら行ってきたことの解決につながった。
・緊急時、スムーズに対応できるようにマニュアル作りや研修を行っていく必要性が感じられた。また、様々なアレルギーをもつ児童生徒も増えているため、家庭との連携を密にし、職員間でも対応について共通理解を図ることが必要である。

【相談活動】

・相談活動と不登校支援を中心に各校の事例やそれぞれが抱える悩みを交流することができた。校種や学校規模により問題も様々であるが、だからこそ小中連携の重要性を確認することができたのは大きな収穫となった。
・記録を残すことの大切さ、校内体制や情報共有の実態、関係機関との連携方法等、学びを深めることができた。
・どの学校も課題となっていたのは、校内体制づくりの確立である。昔と比べ、子どもや保護者の質が変化している中で、「誰もが安心して利用できる場所」という保健室の機能を損なわないような支援の在り方を模索してくことが求められる。

【掲示物】

・各校の工夫していることや困っていることを交流することができた。
・交流を通して、素敵なアイディアを聞くことができ苦手意識が少しなくなったという声もあがった。
・子どもたちに長く楽しんでもらうために、様々な仕組み等今後も研究していく必要がある。

【保健指導】

・「集団に行う保健指導」「個別の保健指導」にしぼった内容で交流を行った。
・どちらも共通した課題として、時間の確保が上げられた。昨今、小中学校共に授業時数の確保が難しくなっているが、いかにタイムリーに適切な指導を行うかは校内での計画と連携が重要であることが確認された。

## ３．理論研修会

演　題「子どもの問題をみる３つの見方」
講　師　北海道大学大学院教育学研究院・準教授
臨床心理士　加藤　弘通　氏

子どもの見方、声のかけ方、聞き方等、たくさんの事例を交えた具体的なお話で、すぐに実践につなげることのできる方法をたくさん学んだ有意義な理論研修会となった。

### □見方を変えるための３つの見方

・基本の見方

Ⅰ「できないこと」ではなく「できること」をみる

Ⅱ「なぜ」よりも「なに？」を考える

Ⅰ＋Ⅱ

⇩

「できないこと」が「できるようになった」とき
そこで「なにが起きたのか」を確認する！

Ⅲ　問題（できないこと）を「分けてみる」

### □語り方・聞き方の重要性

・事例自体の難しさ〈解決不能にする語り方・聞き方〉

・リソースという考え方：「ない」＜「ある」

例）学力が遅れている　→　学力は○年生まである

### □真実より機能という視点

・どうすれば専門職が専門家として機能するか？

→子どもの良いところで関わってもらう

例）親が関わらない　→　親がかかわれるためには

授業に出させるには　→　出たくなる授業

*参加者の声を一部紹介します。*

・相談を聞くときに見方を変えることが有効だと思ったので学校で実践してみたいと思います。

・３つの「見方」目からうろこでした。でもそのマインドを身につけなければ！と思いました。

・とても具体的で分かりやすく即実践に生かせそうです。日々意識しながら対応していきたいです。

・「子どもを変えるのではなく、自分たちの対応を変えればいい」できる部分に注目する。明日からぜひやってみたいと思います。